



# 高輪だより5月号

平成30年4月27日  
港区立高輪幼稚園  
園長 柿沼 敦子

## 幼児期に育みたいこと

園長 柿沼 敦子

園庭の木々の葉の緑が見上げる青い空に映え、風薫る五月となりました。

子どもたちは、作った鯉のぼりが風になびく様子をうれしそうに見ていました。

先日、ある講演会で、子どもたちの読解力が低下しているとの話を聞きました。もちろん読解力と学力は比例しているので未来が危ぶまれます。

読解力をつけるには、たくさん本を読めば良いのでしょうか。本が好きな子が必ずしも読解力があるとは限らないそうです。読んだ後に書いた人が何を訴えたいのかを考えたり、自分の考えをまとめたりすることで読解力が高まるという人もいます。

重要なことは生活体験が豊富であることだそうです。物事の仕組みや因果関係が分かると、実際の場面がイメージでき、読み解く力につながるのでしょう。

幼児期の体験的な学びが大切なことを、講演を通して確信できました。日頃の園生活での自然との関わりや運動遊び、構成遊び、砂遊び、製作、絵画、人と関わる中で様々な心もちを感じる事、お手伝いや当番活動などに思いを馳せました。様々な遊びや生活を通して感じたり、不思議に思ったり、考えたり、試したり、判断したり、味わったり、自分の言葉で伝えたりする体験は未来を生き抜く子の土台、根っこを育てていきます。将来AI化が進んだ社会になったとしても、知恵を使って困難を乗り越えられる人になってほしいと心から思います。今後も子どもたちが、わくわくしながら主体的に体験を積み重ねる教育を充実させてまいります。



年長組が作った鯉のぼりと  
年長組に抱っこしてもらって観ている年少組



作った鯉のぼりを持って走る年中組



シールを貼って鯉のぼりを作る年少組